

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 菅生 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 英語)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 英語)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語, 数学, 英語)の結果

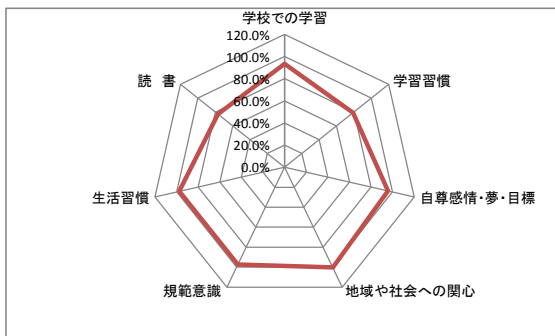
本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	6.9	69	8.9	56	10.6	51
全国	7.3	73	9.6	60	11.8	56

※英語「話すこと」調査に関しては、参考値のため、集計から除外している。

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	どの領域とも正答率は全国平均より下回っている。また、無解答率も全国平均より高い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	文章に表れているものの方や考え方について、自分の考えをもつ問題は正答率が高い。	
	努力が必要な問題	「声の広場」への投稿を封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を書く(正答率が低く、無解答率が高い)	
数学	全体的な傾向や特徴など	どの領域とも正答率は全国平均より下回っている。また、無解答率も全国平均より高い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	図書だよりの下書きに書かれているわかったことの根拠となる値として適切なものを選ぶ(全国平均より上回っている)	
	努力が必要な問題	連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明を完成する 四角形ABCDがどのような四角形であれば、AF=CEになるかを説明する(正答率が低く、無解答率も非常に高い)	
英語	全体的な傾向や特徴など	どの領域とも正答率は全国平均より下回っている。また、無解答率も全国平均より高い。 読み取る問題については、全国平均を上回っているものもある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる問題については、全国平均を上回っている。	
	努力が必要な問題	全国と同様に、聞いて把握した内容について、適切に応じることができる問題については、無解答率が非常に高く、正答率がとても低い。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
読書への関心が低く、結果として読書をする習慣も身につけていない。また、家庭学習では、学習方法や学習時間の割り振りなど、計画を立てて勉強することが苦手であり、学習時間も短い傾向にある。その結果、学校での学習でも、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることや、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んで話し合うことが苦手とする生徒が多い。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ○普段の授業の中で板書計画用ノートを作成し、生徒の思考の過程を想定した授業づくりを実践する。 ○問題を工夫して解決の見通しをもたせ、考えを広げたり、深めたりする話し合い活動を行う。その際、生徒に、自分の考えた過程をノートに記入させ、話し合い活動を通して、他者の考えからわかったことを記入させる。 ○話し合い活動を通して学んだ題材を利用して、定期考査で問題解決を考える過程を答えさせる問題を出題する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習用のプリント等を長期休みや週末等の課題として出し、評価・点検する。 ○定期テスト前に学習計画表を作成し点検・指導する。 ○定着度診断シートを活用して、既習の学習内容を復習させたり、結果を基に自分の弱点を補充したりする学習を行わせる。
